

## 2018年度GSK医学教育事業助成の概要

学会名

日本呼吸器内視鏡学会

正式名称

若手気管支鏡医養成のための包括的教育プログラム

医学教育事業の概要

e-learning プログラム：気管支鏡検査の基本操作等基本手技をテーマとし、検査の意義、適応、禁忌等の解説  
ハンズオンセミナー：セミナー参加者にe-learningプログラムの受講を義務付け、支部単位で開催

医学教育事業の対象者（100文字以内）

主な医療関係者：医師

対象となる医療関係者の想定人数：1,900名

医学教育事業の必要性 / 目的（300文字以内）

増加する肺癌の診断方法は気管支鏡検査が中心である。気管支鏡検査技術は年々進歩しており、安全性の担保と診断技術の普及のための教育は不可欠である。気管支鏡検査の必要性から呼吸器内視鏡学会の若手医師は着実に増加しているが、各施設や支部会レベルでは若手医師に対し十分な指導が行えていない可能性がある。本事業では、気管支鏡専門医を目指す若手医師を対象としe-learningプログラムとハンズオンセミナーを組み合わせた包括的なトレーニングプログラムを作成し、若手医師の技術向上および全国での気管支鏡技術水準の均てん化を目的とする。さらに、e-learningプログラムを会員に開放することで会員全体の生涯教育に利用できるものとする。

医学教育事業の計画・方法等（600文字以内）

本事業は大きく二つの教育プログラム、すなわちe-learningプログラムとハンズオンセミナーから構成される。

- ① e-learningプログラムは気管支鏡検査の基本操作、直視下病変の生検および擦過細胞診、肺野末梢病巣の生検および擦過細胞診、針生検、経気管支肺生検・気管支肺胞洗浄、超音波気管支鏡下縦隔リンパ節穿刺、といった基本手技をテーマとし、検査の意義、適応、禁忌、検査前準備事項、検査中の注意事項、検査後の観察項目などを細かく解説する。特に、手技の安全性や確実性を重視してプログラムを作成する。この内容はさらに、必要に応じて実際の症例やハンズオンセミナーのビデオをこの教育コンテンツの中に取り込むことにより、ハンズオンセミナー前の予習を行う意味でも有用な内容とする。
- ② ハンズオンセミナーは学会入会后10年以内の医師に優先受講権を与える。ハンズオンセミナーの参加者にe-learningプログラムの受講を義務付ける。日常業務で多忙な若手医師のアクセスのし易さなどを考慮し地域毎に8支部単位でセミナーを開催する。講師は気管支鏡指導医以上の資格を持つ医師に限定し、事前にe-learningの内容を確認してもらうことで指導内容の質を高める。参加人数に合わせて十分数の機材を準備し、機器の選択方法や取り扱い方、経験症例からの教訓、コツ等について、実機を動かしながら指導する。参加後には安全性や確実性に十分に注意を払いながらすべての基本手技が一人でできるようになることを期待する。

医学教育事業の効果の測定方法（200文字以内）

ハンズオンセミナーの参加者にはe-learning開始前、終了後、ハンズオンセミナー終了後の三回に分けて到達度試験およびアンケート調査を行う。到達度試験の変化率により直接的な教育効果を確認する。さらに本事業が日常臨床に還元されているかハンズオンセミナー3ヶ月後にアンケートをとり、改善点、問題点を抽出する。ハンズオンセミナー講師にもアンケート調査を行い、e-learningを組み合わせた効果の印象を聴取する。

医学教育事業の成果に対する情報共有について（200文字以内）

本事業の概略と成果については、学会ホームページで公開・広報を行うとともに、本学会学術集会にて発表する。さらに、本事業による教育効果について学術論文に投稿する。また、受講者のモチベーションを高めるためハンズオンセミナー受講修了者を学会ホームページに公開することも検討する。